

# 天然ニホンウナギ資源管理研究

(予算区分 受託 研究期間 平成 27～30 年度)  
担当：水産技術研究所浜名湖分場 飯田益生

## 【研究の背景とねらい】

ニホンウナギ（以下、ウナギ）は、平成 26 年 6 月に国際自然保護連合が絶滅危惧種に指定するなど、資源の減少が危惧されています。そのため、様々な保護策が取り組まれています。天然のウナギの漁獲実態や資源状況など基本的な情報は少ないのが現状です。そこで、水産庁は平成 25～26 年度に「鰻生息状況等緊急調査事業」を実施し、平成 27 年度からは、「鰻来遊・生息調査事業」として、①「全国各地におけるシラスウナギの来遊状況の把握とニホンウナギの移動状況等の把握」、②「ニホンウナギの個体標識技術の開発」、③「河口・干潟・内湾ウナギの生態解明」の 3 課題をスタートさせました。このうち、静岡県水産技術研究所は、③「河口・干潟・内湾ウナギの生態解明」に参画しています。

浜名湖周辺地域は、ウナギの養殖地として全国的に有名ですが、浜名湖自体も、天然ウナギの漁獲量が年間 10 トン前後ある全国有数の漁場です。そこで、浜名湖における天然ウナギの生態を解明し、資源の管理方策立案のための基礎的知見を得るため、本事業に参画して調査・研究を行います。

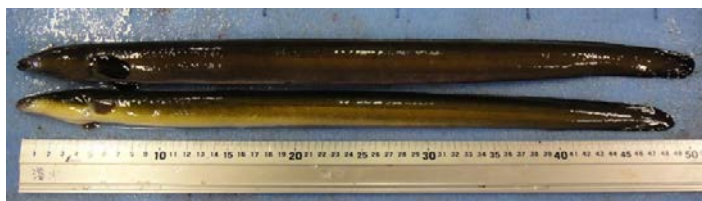


写真 上：銀ウナギ 下：黄ウナギ

## 【これまでに得られた成果】

(平成 27 年度の成果)

- ・浜名湖全体における天然ウナギの生態解明のため、遠州灘からの海水の影響を強く受けるとされる鷲津市場と、都田川からの淡水の影響を強く受けるとされる気賀市場において、小型定置網漁で漁獲された天然ウナギを購入して調査しました。
- ・両市場とも、9 月から銀ウナギ（写真）が漁獲され始めました。
- ・気賀市場では、9 月に体重 100～150g を中心とした平均体重 130g の小型の天然ウナギが漁獲され、そのほとんどが未成熟の黄ウナギでした。しかし、11 月には体重 500g 以上を中心とした平均体重 387g の大型の天然ウナギが漁獲され、ほとんどが成熟した銀ウナギでした。このことから、都田川に住む黄ウナギが、河川で銀ウナギに変化した後に浜名湖に下ってきたのではないかと考えられました。

## 【期待される成果】

- ・浜名湖における天然ウナギの生態、漁獲実態が明らかとなり、天然ウナギ資源を管理するための基礎的な情報を得ることが出来ます。

## 【今後の計画】

- ・今後も浜名湖における天然ウナギの生態解明や漁獲実態の把握のため、鷲津市場と気賀市場で漁獲された天然ウナギについて調査します。

(作成 平成 28 年 4 月)